



Takashi Sato



Misora Ozaki

Takashi Sato Schubert-Zyklus

佐藤卓史

シューベルトツィクルス

ピアノ曲全曲演奏会

第24回

4手のための序曲 —オペラの夢—

ゲスト:尾崎未空(ピアノ)

フランツ・シューベルト:

イタリア風序曲 ニ長調 D592 (1817)

歌劇『アルフォンソとエストレッラ』序曲 D773 作品69 (1823)

英雄的大行進曲 イ短調 D885 作品66 (1826?)

イタリア風序曲 ハ長調 D597 (1817)

歌劇『フィエラブラス』序曲 D798 (1823)

エロルドの歌劇『マリー』の主題による8つの変奏曲
D908 作品82-1 (1827)

2026年 9月13日(日) 13:30開場 13:45プレトーク
14:00開演

音楽の友ホール

入場料(全席自由):一般5,000円 学生2,500円

design by MAI KUDO

後援: オーストリア大使館/オーストリア文化フォーラム東京、ベーゼンドルファー・ジャパン、株式会社河合楽器製作所、
島村楽器株式会社、一般社団法人日本ピアノ調律師協会、一般社団法人全日本ピアノ指導者協会(ピティナ)、
月刊ショパン、東京藝術大学音楽学部同声会

マネジメント・お問い合わせ: アスペン 03-5467-0081

チケット取扱: 電子チケットサービスteket(テケト) teket.jp/3117/51288 …QRコード…▶

チケットぴあ t.pia.jp (Pコード:320-568) アスペン 03-5467-0081

佐藤卓史公式ウェブサイト www.takashi-sato.jp



Aspen

佐藤卓史シューベルトツィクルスとは・・・

第11回シューベルト国際ピアノコンクールの覇者佐藤卓史が2014年にスタートした、フランツ・シューベルトのピアノ関連器楽曲(独奏曲、連弾曲、室内楽曲)のすべてを網羅的に演奏するプロジェクトです。最新の研究成果を駆使しての知的な洞察、独自の観点からの未完作品の補筆など、作曲家への愛情と共感に溢れた新しいシューベルトの世界を提示しています。

使用楽器は「ベーゼンドルファー・インペリアル」。

ベーゼンドルファー社はシューベルトが他界した1828年にウィーンで創業、以来世界有数のピアノメーカーの一角に君臨し続けています。昔ながらの手づくりでこだわり、鉄骨フレームではなく木製の外枠で弦の振動を増幅させる設計は、他のピアノとは全く異なるベーゼンドルファーだけの特徴。これによって生まれるまろやかな音色は「ウィンナ・トーン」と呼ばれ、シューベルトに代表されるウィーンの音楽との相性は抜群です。なかでもフラッグシップモデルの「290」は、通常のピアノよりも低音域が9音拡張され、97の鍵盤を持つ大型コンサートグランド。拡張された9鍵は、普段は演奏されることはありませんが、低音弦の共鳴により深く温かい響きを湛え、「インペリアル」の愛称で親しまれています。



気鋭のゲストを迎えて、連弾で彩る華やかな「オペラの夢」。

人々がオペラに熱狂した19世紀。巨匠サリエリから「イタリア様式」の薫陶を受けたシューベルトのコンサートデビュー作『イタリア風序曲』の評判は、遠くドイツにまで轟きます。師と同じくオペラ作曲家としての成功を夢見たシューベルトは、友人たちの台本をもとに『アルフォンソとエストレラ』『フィエラブラス』など数々のオペラを作曲しましたが、イタリアオペラが覇権を握るウィーンの街では上演されることも叶いませんでした。シューベルト自身の手で連弾用に編曲されたこれらの序曲に加え、フランスの作曲家エロルドの歌劇『マリー』の主題による変奏曲など、華やかなオペラの世界へ誘う今回のプログラム。ミュンヘンを拠点に国際的に活躍する気鋭・尾崎未空をゲストに迎え、儂く散ったシューベルトの「オペラへの夢」を今に蘇らせます。

詳しくは連動ブログで!

シューベルトティアード電子版

検索

schubertzyklus.blog.fc2.com



第24回公演ゲスト 尾崎未空(おざき・みそら) Misora Ozaki, Pianist

12歳でオーケストラと初共演、翌年にめぐろパーシモンホールにて初リサイタルを開催して以来、国内外で数多くの演奏会に出演する。2019年ドイツ・アーヘンで行われた MozARTE国際ピアノコンクールで第1位及び聴衆賞、2016年ピティナピアノコンペティションにて特級グランプリ及び文部科学大臣賞を受賞。他にもタリン国際ピアノコンクール、オルレアン国際ピアノコンクールの各大会で第3位。スタインウェイ奨励賞、インゴルシュタット・コンサート協会奨励賞、松方ホール音楽賞などの数々の受賞歴を持つ。「尾崎は確信と卓越性、そして同時に謙虚さを持ち合わせながら舞台を輝かせた。」(ドイツ・インゴルシュタット地元紙「Donaukurier」より)

2022年6月にはドイツのヘンレ出版社主催による、マレイ・ペライア氏の3日間のマスタークラスに受講生として参加。同年12月には同出版社のサロンコンサートに招かれ、バッハの『ゴルトベルク変奏曲』を演奏し好評を博した。レパートリーはバロックから現代曲まで幅広く取り組んでおり、近頃は自身による新曲委嘱の作品も演奏している。これまでにリトアニア国立交響楽団、エストニア国立交響楽団、ミネソタ管弦楽団、新日本フィルハーモニー交響

楽団、東京交響楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団等数多くのオーケストラと共演。またドイツ、オーストリア、イギリス、オランダ、ポーランド、ノルウェーなどでリサイタル開催やコンサート出演を重ねている。現在ミュンヘン在住。

佐藤卓史(さとう・たかし) Takashi Sato, Pianist

2007年第11回シューベルト国際コンクールでの優勝と、その後の世界各地での演奏活動により“現代随一のシューベルト弾き”の国際的な名声を確立。シューベルト演奏・研究の第一線で活躍を続けている。

高校在学中の2001年、日本音楽コンクールで優勝。東京藝術大学を首席で卒業後渡欧、ハノーファー音楽演劇大学、ウィーン国立音楽大学で研鑽を積む。その間、2006年ミュンヘンARD国際コンクール特別賞、2008年シドニー国際コンクール第4位・シヨパン賞、2010年エリザベート王妃国際コンクール入賞、2011年カントウ国際コンクール第1位、メンデルスゾーン国際コンクール最高位など受賞多数。N響、東響、ベルギー国立管など内外のオーケストラと多数共演、また「トリオ・ジャパン」「トリオ・スペリオール」メンバーを務めるなど室内楽奏者としても活躍。近年は作編曲にも本格的に携わる傍ら、執筆・配信・レクチャーなど幅広いチャンネルを通じて音楽の魅力と奥深さを次世代に伝える活動に力を入れている。公式ウェブサイト ▶ www.takashi-sato.jp



音楽の友ホール

新宿区神楽坂6-30 (株)音楽之友社内
TEL 03-3235-2115
ontomo-hall.ongakunotomo.co.jp

- 東京メトロ東西線「神楽坂駅」
1a, 1b出口より徒歩約1分
- 都営地下鉄大江戸線「牛込神楽坂駅」
A3出口より徒歩約7分
- JR・東京メトロ「飯田橋駅」より
徒歩約12分

※駐車場はございません。公共交通機関をご利用下さい。

